

LCIF 国際委員エリア・MD コーディネーター会議要録

日 時：2016年7月22日（金） 14：00～17：00

場 所：ダイコク電機 本社ビル 7階役員会議室

出席者：

LCIF 国際理事	L.鈴木 誓男
LCIF エリアコーディネーター（東日本担当）	L.大石 誠
LCIF エリアコーディネーター（西日本担当）	L.榎本 舜治
LCIF MD330 コーディネーター	L.安達 成功
LCIF MD331 コーディネーター	L.小野寺 眞悟
LCIF MD332 コーディネーター	L.渡邊 豊 [欠席]
LCIF MD333 コーディネーター	L.大 柁 廣伸
LCIF MD334 コーディネーター	L.加藤 助太郎
LCIF MD335 コーディネーター	L.北 畑 英樹
LCIF MD336 コーディネーター	L.橋本 充好
LCIF MD337 コーディネーター	L.大石 隆敬
LCIF オセアル担当課長	クリストファーブランケット
LCIF 人道主義プログラム援助金交付課 通訳	ジンダリ・ベック 館 洋輔
LCIF 日本事務所事務局員	平岩ひろみ、堀 郁世

議事進行

LCIF 国際理事 鈴木 誓男

○あいさつと自己紹介

出席者全員

○LCIF 新年度方針及び助言

LCIF 国際理事 鈴木 誓男

1. 報告事項

1) 鈴木 LCIF 国際理事より以下について説明あり。

(1)LCIF 組織の説明 — 本年度より、LCIF 国際理事・幹事 栢森新治氏が執行部
役員並びにオセアル代表、鈴木誓男 LCIF 国際理事が LCIF の日本の代表になった。

(2)東西のエリアコーディネーターの紹介。

(3)LCIF で最も大切なのはアクティビティ＝奉仕をしていただくこと。奉仕を一般
メンバーが理解して、感激することが LCIF への参加協力のモチベーションに繋
がる。今年はメンバーに交付金についての理解を深めることを全面に、と考えて
いる。

2) LCIF 人道主義プログラム援助金交付課ジンダリ・ベックより、交付金について
の説明あり。

一般交付金に関して：日本の交付金の傾向として、比較的小規模の交付金申請が多いが、大きな金額の交付も可能。興味がある事業があれば検討してほしい。一般交付金はかなり広範囲で、柔軟な交付金なため、奉仕を受ける人々の生活の質を高めるために自由な発想で事業を考え、奉仕に役立ててほしい。

国際援助金に関して：医療関係の交付申請が多い。大切なポイントは日本のライオンズと他国のライオンズクラブの関係づくりに役立っていること、又、短期間での交付金事業に適している。1万ドル未満の交付金申請であれば、理事会の承認なく、山田理事長の承認によって交付が可能である。周年事業などのため、奉仕事業(奉仕先)を探していることがあれば、是非相談してほしい。糖尿病などの事業に興味をお持ちの方も是非お知らせいただきたい。

緊急援助金に関して：震災などの際、クラブ、地区、複合単位で申請できる。

大災害援助金に関して：これはクラブ、地区、複合の申請対象外。

新しい2つの交付金に関して：災害準備交付金、地域復興交付金ができた。新しい交付金なので質問、疑問、サポートの必要があれば気軽にお知らせいただきたい。(詳細は資料参照)

3) LCIF 開発課オセアル担当課長 クリストファー・プランケット氏よりオセアルの現状と今後についての説明あり。

これまでは資金獲得に力を入れてきたが、今年は山田理事長、鈴木 LCIF 国際理事のもと、なぜ資金が必要かということを理解してもらうことに力を入れていきたい。昨年度はこれまでで初めて全体で目標を達成できなかった(95.5%)が、オセアル(会則地域 V)は目標よりも300万ドル多く集めた。これは視力ファーストIIキャンペーンに次ぐ、歴代2位の記録。これからの課題としては会則地域 V 以外の献金を増やしていくこと。これまでの累積で日本は約3億3,000万ドルの献金をしている。これは、決して今後も他の国がしのぐことのできない記録であろうと思う。今後は少ない人からの大きな金額の寄付よりも少ない金額であってもたくさんの人からの寄付を考えることで総額を増やすことは可能。その方法の一つとして、例えば、寄付の方法には色々な方法があることを多くのライオンメンバーに知らせてほしい。全ての個人献金は MJF として累積されている。これまで献金会員として貢献している会員にも、累進 MJF になるチャンスがある。たとえ少ない金額の貢献でも必要な人の生活に大きなインパクトを与える奉仕に生かすことができる。

最新情報として：今年から LCIF クラブコーディネーターが正式に発足。クラブコーディネーターにも情報を提供していく。

○前年度の活動報告と今後の方針について MD コーディネーター（出席者）全員各 MD コーディネーターより活動報告と今後の方針について発表あり。

○LCIF 西エリアコーディネーター L.榎本舜治より LCIF 研修プレゼンテーションについて、資料に基づき説明あり。

MD コーディネーターの役割として正しい情報を単位クラブまで伝えていくことが何よりも大切。資料の提供やサポートをしていくので、どんどん活用してほしい。

*今回は時間の都合上、資料の簡単な紹介のみ、使い方など詳細は次回 MD 会議にて予定。

2. 決議事項

・本年度の MDC 会議日程

第 2 回 2016 年 8 月 24 日(水) 10 時~12 時 名古屋マリオットアソシアホテル

第 3 回 2016 年 12 月 7 日(水) 時間、場所は未定

第 4 回 2017 年 2 月 8 日(水) 同

年 5 回 2017 年 6 月 14 日(水) 同

・今年度エリア毎のコーディネーター会議は原則として開催しない。

・本年度からのライオン誌執筆担当は ACW L.榎本舜治となるが、その条件として毎月、各コーディネーターの方からの記事の元となる情報、活動報告をしてほしいと要望あり。

3. 提案事項

鈴木 LCIF 国際理事より以下の説明あり。

・スペシャルオリンピックスの紹介。今後どのような後援ができるか考えていきたい。このような情報を LCIF の MD コーディネーターとしての情報を集め、ボランティア参加を各クラブにお願いするなどの活動も視野に入れてほしい。

・日本版のツールについて：今後は海外の事例だけでなく、日本版のツールも増やしていきたい。各地区、複合で素材となるツールがあれば積極的に送ってください。日本版 DVD を作成し、例会で流してもらえるものを作るのでご協力ください。

17:00 鈴木 LCIF 国際理事により閉会